

今日のトピック 堅調に推移する米国の雇用統計（2018年5月）

雇用者数、失業率は改善、賃金の上昇は緩やか

ポイント1 雇用者数は22.3万人増 サービス業の雇用増が加速

- 2018年5月の非農業部門雇用者数は前月比22.3万人増となり、ブルームバーグ集計による市場予想の同19.0万人増を上回りました。3カ月移動平均では、同17.9万人の増加となります。
- 業態別では、民間サービス業の雇用者数の伸びが、前月の同10.9万人から同17.1万人に加速したのが目立っています。なかでも、小売業や輸送業の雇用が大きく増加しました。

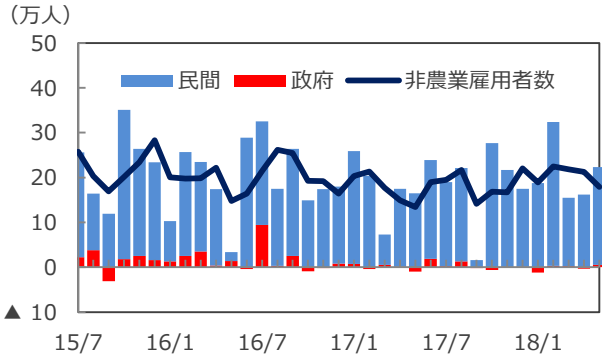
ポイント2 失業率は低下 賃金は引き続き緩やかに上昇

- 失業率は前月の3.9%から3.8%に低下しました。2000年4月の3.8%以来の低い水準です。労働力人口（労働供給）が伸び悩んだのに対し、就業者数（労働需要）が大幅に増えたためです。
- 一方、賃金は前月比0.3%増、前年同月比では2.7%の増加となりました。失業率の低下や自発的離職者比率の上昇が示す通り、労働需給は引き締まってきています。今後も賃金上昇率は緩やかに高まる見込みです。

今後の展開 景気拡大と物価安定が両立

- 雇用統計が公表された6月1日の米国株式市場では株価が上昇、外為市場では米ドルが円やユーロ等の主要通貨に対して小幅ながら値上がりしました。雇用の増加数が市場予想を上回ったうえに、賃金の伸びが緩やかだったことを受けて、米国が景気拡大と物価安定の両立という、良好な状態を保っていると評価されたためです。
- 今回の雇用統計の内容から判断する限り、6月12日、13日に開催される次回の米連邦公開市場委員会（FOMC）では、利上げが決定される可能性が高いと考えられます。その後も、政策金利の引き上げは継続される見通しですが、物価と賃金の上昇率がなかなか加速しない状況を踏まえると、利上げのペースが速まることは当面なさそうです。

【非農業雇用者数の推移（前月比増減）】

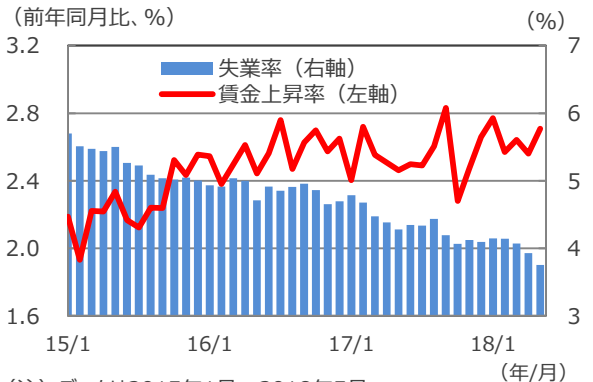


(注) データは2015年7月～2018年5月。 (年/月)

非農業雇用者数は3カ月移動平均ベース。

(出所) 米国労働省のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【賃金上昇率と失業率】



(注) データは2015年1月～2018年5月。

(出所) 米国労働省のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここも
チェック!

2018年5月29日 米国経済と長期金利の見通し（2018年5月）
2018年5月29日 3%近傍で推移する米国の『長期金利』

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。